

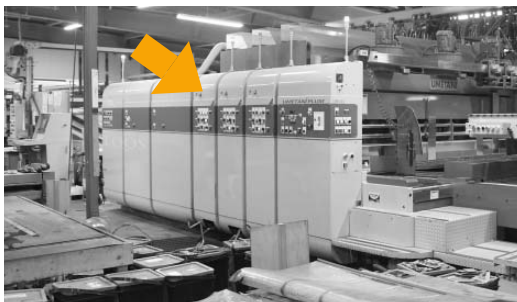
印刷機レーン

①製造データを確認



1日に印刷される各企業のデータが並んだコンピューターで製造データを確認。1日約40件の注文をこなすそう。

③印刷



印刷の機械は3つのブースに分かれていて、それぞれ1色ずつプリント可能。1色なら1つ、3色なら3つのブースが作動するんだ。

チェック!



樹脂製の印版からシートへ判子のようにインクを転移。



印版の着脱は人の手で。使用後すぐ洗いしていたよ。

工場に潜入!

作業は印刷から結束まで機械で行われるけど、出来栄へのチェックなどは人の目で。日本工業規格(JIS)の3倍以上という20項目の検査を各工程で行い、品質管理に力を入れているんだ。印刷機レーンと打抜機レーンを見学させてもらったよ。

②シートを移動し機械にセット



使用する段ボールシートは人の手で印刷機へ移動。このシートは岩手県の本社工場で作られ、毎日秋田工場にトラックで運ばれてくるんだ。

④溝切り



プリントが終わると、溝切りや穴開けといった加工も同時に行われて次の工程へ。

チェック!



印刷が終わったシートを抜き取って文字の位置や色の濃さなどを確認。

⑤のり付け・接着



のり付け後、ベルトで運ばれながら少しずつ折り曲げられて接着。折りたたんだ状態の段ボール箱に成形されるよ。

⑥結束・排出



設定の枚数ごとに結束され排出。200枚製造するのにセットから排出まで7~8分で作業が完了したよ。

⑦出荷



配送用のトラックに手際よく積んで、早ければ排出後すぐに注文のあった会社へ配達するそう。

打抜機レーン

チェック!



左：企業ごとにオーダーメイドされた抜き型が矢印の場所にセットされているよ。
 右：倉庫には約500個の抜き型が置かれている。数字で管理され置く場所も決まっているそう。



抜き型で段ボールシートを加工するレーン。のり付けを行わず、パーツを折ったりはめ込んだりして成形する箱を製造しているよ。

抜き型で作られたとら年の置物。同社オリジナルのえとシリーズが人気。



工場見学は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休止中です。再開時期についてはお問い合わせを。 問合せ 秋田工場 ☎58-2711



仕上げは人の手で余分な部分を取りのぞく。

3・11東日本大震災から11年
有事に活躍 段ボールベッド

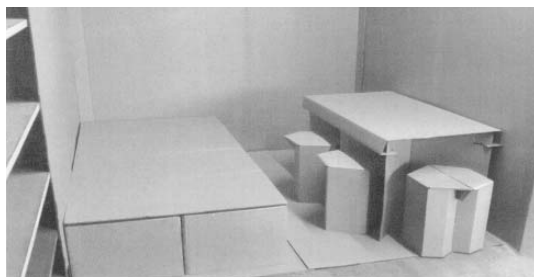
平成23年3月11日に発生した東日本大震災から11年となります。震災以降注目されているのが、段ボール製の簡易ベッドです。

当時、長引く避難所生活の中で、エコノミークラス症候群などの健康被害が問題視されました。

こうした問題を解決するために避難所などに導入されたのが段ボールベッドです。

鎌田段ボール工業の本社では震災当時、段ボールベッドを製造して避難所に提供したそうです。秋田工場でも段ボール

ベッドを製造し、本市を含め、周辺の自治体に提供しています。いつ起こるか分からない災害。有事には、大変な避難所生活を支えるため、段ボール製品が力を発揮します。



段ボール製品はベッドのほかテーブルやいす、パーテーションなどがある